

薬師寺の宝

川辺を歩く

師走入り神社仏閣では、年の最後の縁日を「納め天神」「終い薬師」といって普段以上の御利益があると信じられている所も多いと聞きます。病気を治してくれる仏の薬師如来を本尊にまつり「薬師寺」と呼ばれる寺院は全国各地にあり、市内にも川辺（栄地区）にあります。

吉田山薬師寺は、1243（寛元元）年に後堀河天皇の第2皇子・林阿宮が創建したとする伝えがあります。

長い参道を進み仁王像を安置する山門をくぐると、正面にもとは客殿であった本堂、左側に旧本堂の薬師堂、右側に鐘楼などが建ち並び、由緒にふさわしいたたずまいが感じられます。

薬師寺には、1979（昭和54）年に当時の野栄町が文化財指定した仏画が所蔵されています。このうち「釈迦涅槃図」と「西界曼荼羅図」を見守る機会がありました。

『野栄町史』によると、釈迦涅槃図は縦約206cm、横約147cm、絹絵に彩色が施され、江戸時代初期の作と推定され、後期に修理されています。涅槃図は仏教の開祖釈迦が入滅した旧暦2月15日に催される法会の際に公開され、多くの善男善女が参拝したことでしょう。

西界曼荼羅図は、「金剛界」と「胎蔵界」の二つの曼荼羅で一組になります。ともに縦約180cm、横約113cmで涅槃図同様、絹絵に彩色が施され、室町時代初期の作と推定されています。これら3点の薬師寺の寺宝は、文化財指定当時から損傷が見られ、寺側では修理の必要性を考えていると聞きます。

今年の除夜の鐘は、「仏画復興」の願いも込めて突かれることでしょう。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

関秘書課広報広聴班

☎73・0080



薬師寺の寺宝である仏画。損傷が見られるため寺側では修理の必要性を考えている

太平洋戦争で供出された1675（延宝3）年に造られた梵鐘（釣り鐘）をはじめ、諸堂は江戸時代の中ごろに建てられ、大般若経や法華経などの経文類も地域の有力檀家から寄進されました。また参道や境内に石像物がまつられ、村人らがこの寺に厚い信仰を寄せていたことが知られます。